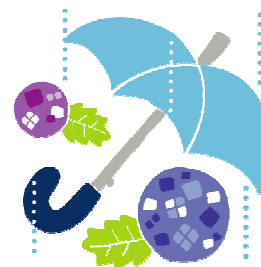


2007年 夏  
おむらいす



	<p><b>ぼくのつくった魔法のくすり</b> 評論社</p> <p>作/ロアルド・ダール 訳/宮下 嶺夫 絵/クエンティン・ブレイク</p> <p>映画になって話題を呼んだ「チョコレート工場の秘密」の作者です。他にも、「おばけ桃の冒険」「こちらゆかいな窓ふき会社」など、奇想天外な楽しいお話もあります。</p>
	<p><b>だれも知らない小さな国</b> 講談社</p> <p>作/佐藤 さとる 絵/村上 勉</p> <p>コロボックル物語シリーズになっており、全部で5冊あります。作者の佐藤さとるの作品は、村上勉の絵によるものが数多くあります。独特な画風の絵は、だれもが一度は目にしたことがあるかと思えます。</p>
	<p><b>ハンカチの上の花畑</b> あかね書房</p> <p>作/安房 直子 絵/岩淵 慶造</p> <p>ここで紹介しているのは、岩淵慶造がさし絵の本ですが、味戸ケイコがさし絵をしている作品が多く、安房ワールドをより一層幻想的にしています。</p> <p>「キツネの窓」もぜひ読んでほしい一冊です。</p>
	<p><b>ぼくは王さま</b> 理論社</p> <p>作/寺島 輝夫 絵/和田 誠</p> <p>「くすっ」とつい笑ってしまうような、ナンセンスな、ほのぼのした物語です。字も大きく、お話も短いです。この本の中には、王さまを中心に巻き起こる楽しい出来事が四話おさめられています。長いお話を読むのは苦手だな、という人に、ぜひオススメです。</p>
	<p><b>へんないきもの</b> バジリコ</p> <p>作/早川 いくを 絵/寺西 晃</p> <p>続編として、「またまたへんないきもの」があります。今回紹介したのは、続編の方です。これは物語ではなく、実際に存在する生き物を紹介した「図鑑」です。精密に描かれたイラストを見るだけでも楽しくなりますよ。</p>



## ドリトル先生アフリカゆき 岩波少年文庫

ヒュー・ロフティング文(全12巻 井伏鱒二 訳)

動物と話のできる世界一の名獣医ドリトル先生は、恐ろしいえき病からサルたちを守るために、たくさんの動物たちを引き連れて船に乗りアフリカに向かいます。どんな困難も動物たちの助けを借りれば何のその。ドリトル先生の物語は、楽しくて夢中になって次々と読めてしまいます。一冊読めば、十二巻読破できます。とにかくこれを読んでみよう。



## ちいさなスプーンおばさん 学研

アルフ・プリョイセン文(シリーズ3巻大塚勇三・訳)

突然ティースプーンくらいの大きさになってしまったスプーンおばさん。でもおばさんは、くよくよせずに頭を使ってうまくやりのけます。ユーモラスなノルウェー生まれのおばさんの物語はこのほかに「スプーンおばさんの冒険」と「」スプーンおばさんのゆかいな旅」があります。



## 冒険者たちガンバと15ひきの仲間 岩波少年文庫

斎藤惇夫 作

(ガンバの冒険シリーズ全3冊 藪内正幸さし絵)

イタチと戦う島ネズミを助けに、ドブネズミのガンバと仲間たちは夢見が島へ渡りました。しかし、どうもうな白イタチのノロイの攻撃を受け、ガンバたちは知恵と力のかぎりをつくして戦います。「子どもの頃読んだ本で一番心に残ったもの」としてこの物語を取り上げる人が多くいます。勇気のもらえる物語です。ほかに、「グリックの冒険」と、「ガンバとカワウソの冒険」があります。



## 赤い蠟燭と人魚 童心社

小川未明 作(岩崎ちひろ絵)

他にも絵本、作品集がたくさんあります。

お宮のローソクを売っている貧しい老夫婦が、人魚の子を拾って育てます。美しく成長した人魚の娘はローソクに絵を描いて老夫婦を助けますが、老夫婦は「人魚は不吉だ」と大金を見せられて、見せもの師に娘を売ってしまいます。すると海が荒れ、つぎつぎに不吉なことが続くようになります。人の心を描く日本の名作童話も読んでみましよう。